

第14回高機能素材Week大阪、開催

最新素材から猛暑対策まで各社が最新技術を展示

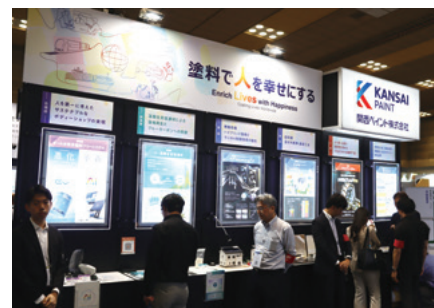
第14回高機能素材Week 大阪（主催：RX Japan）が5月13～15日の3日間、インテックス大阪（大阪府大阪市）で開催されました。

金属やセラミックスなどの最先端の素材技術や製造加工機械、検査・測定分析機器などが一堂に会した高機能素材Week展の他に、レーザー関連技術の総合展として「第6回 Photonix 大阪」、猛暑・熱中症対策製品が披露された「第1回 猛暑テック」などが併催されました。来場者数は3日間で30,736人でした。



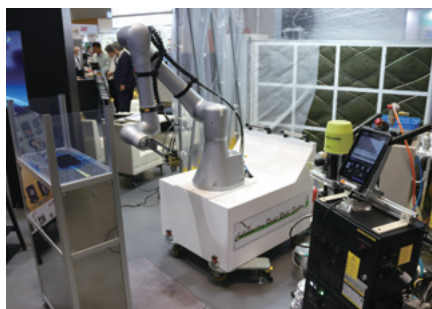
アンデックス

環境配慮型の大風量向け高効率ディスプレイフィルター「GREEN BOX」を出品し、水洗式との違いを訴求。エアカーテン式ゾーン空調システム「AC-ZONE」では来場者がその空調性能に注目していた



関西ペイント（日本塗料工業会ブース内）

新事業として、塗料技術から生まれた藻類生育促進材によるブルーカーボンへの貢献をPR。自補修関連領域では「オール水性有機フリーシステム」やAIカラーセンサーを展示



栗田工業

パーツ塗装などに活用可能な防爆協働ロボット塗装システムを紹介。ダイレクトティーチング可能な防爆協働ロボット「CRX-10iA/L Paint」と中圧の高塗着率自動ガンAVXを組み合わせ、実演展示した



スリーエムジャパン

Scotchブランドから「平面紙基材包装用粘着テープ570」、Scotchproからは「HQ-R60シリーズ」を出品。高いせん断強度や無溶剤、再生樹脂といった特徴に加え、廃棄までカバーする生産性への貢献を訴求



日本ペイント（日本塗料工業会ブース内）

建築用防食用塗料や水性密着プライマー、開発中のインライン用耐火塗料などをパネル紹介。工業用塗料での主力製品ラインアップや水性塗料などでCO₂削減効果をPRした



ネキスト

湿度制御・IOTでリモートメンテナンス対応可能な塗装ブースや屋内外2タイプの少量危険物貯蔵庫の他、水性塗料対応のコンパクトスプレーガン洗浄機「Starter-01」などをPR



Binksジャパン

コンパクトエアフィルターユニット「Proairシリーズ」の他、ベル型高塗着塗装機「RMB26」を実演展示。特許取得済みの高電圧コントローラの高速制御で、安全性を維持しながら安定した静電塗装を実現した



明々工業

猛暑・熱中症対策としてAIRREXブランドから各種製品をPRし、すぐに設置できるクーリング TENT や、高性能デジタルパネル搭載スポットクーラー（HSCモデル）を実演展示した

物流・整備業界の課題解決に寄与する 最新情報が一堂に

大型車や輸送用車両に関連する製品・サービスを提案する「ジャパントラックショー2026」（主催：一般社団法人国際物流総合研究所）が5月14～16日の3日間、パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）で開催されました。

大型車メーカー各社は、物流業界の課題であるドライバー不足や故障による稼働停止を防止するコネクテッド技術を活用した予防整備サービス、そして環境負荷低減を目指したクリーンエネルギーの活用に向け

た取り組みなどを披露しました。一方、機械工具メーカー・商社や部品メーカーは、大型車整備工場向けの整備機器や、環境負荷軽減及びコストダウンに寄与するリビルトパーツなどを紹介しています。

また、国土交通省や大型車メーカー、物流事業者などを招いたセミナーやパネルディスカッションが開催され、物流業界における好事例の共有や課題解決に向けた議論が交わされました。3日間合計の来場者数は66,831人でした。



いすゞ自動車

国内最大規模の販売・ネットワーク拠点を背景に、物流業界が直面するドライバー不足、安全性向上、環境対応などの課題に対し、車両技術とコネクテッドサービスによる解決策を提示した



日野自動車

ディーゼル車からバッテリーEV（BEV）、そして燃料電池車（FCV）まで、多様なエネルギー源を活用した車両群を披露。環境対応における最適なバランスを追求する姿勢を示した



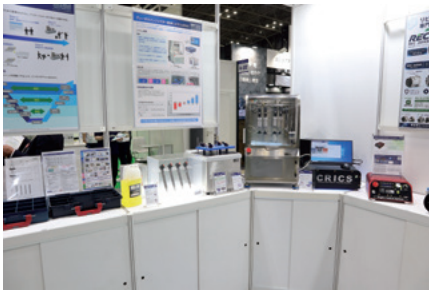
三菱ふそうトラック・バス

新型「キャンター」を「十人十色のビジネス」を支えるパートナーとして披露。一方で子どもたちが整備士を体験できるコーナーを設けるなど、業界の未来を見据えた取り組みも発信した



UDトラックス

大型トラック「クオン」の最新モデルでは、アジア初公開となる自動連結カブラーが披露された。連結・切り離しにかかる作業時間は従来のおよそ半分に短縮され、安全性向上にも寄与する



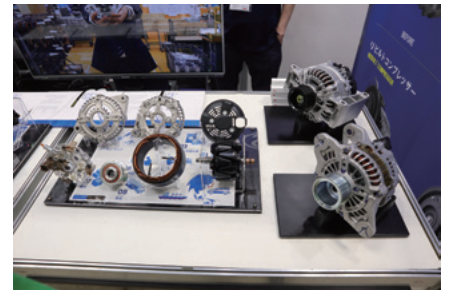
アイ・オール・エス (E3プロジェクトブース内)

インジェクター内部、ノズル先端、噴孔内部の洗浄及び性能測定に対応する洗浄システム・CRICSやディーゼルエンジン駆動機・ESC-Dを展示し、各種製品の特徴及び導入効果を訴求した



阿部商会

乗用車、大型車、二輪車、農業・建設用車両、ポートなどに対応するTEXA社製スキャンツール・TXT MULTIHUB2を出品。CAN、CANFD、DoIP、PassThru通信プロトコルを内蔵する



信越電装

分解したオルタネーターとスターターの展示や受入検査から分解、洗浄/表面処理、塗装、下加工/組み立て、検査（品質保証）などの製造工程の紹介で、リビルトパーツの品質をPR



大光サービス (E3プロジェクトブース内)

スターターやオルタネーターなどのリビルト部品を展示。併せて、バン格拉デッシュの企業との提携による現地人材教育及び日本企業への紹介・サポート体制を紹介した



ターボテクノサービス

大型車用各種リビルトターボチャージャーを展示。リビルトパーツの使用に伴う不安の解消を目的とした、返却されたコアターボの分解調査及び報告サービスや保証オプションなどをPR



リトラス

中古大型車やリビルドエンジンなどの各種商品とともに、グループ会社のリトラス・セラメックスが展開するDPFリフレッシュサービスの活用によるコスト低減効果を紹介した

損保料率機構、 「自動車保険の概況」2025年度版を発行

損害保険料率算出機構（損保料率機構）はこのほど、「自動車保険の概況」2025年度版（2024年度データ）を発行しました。同書は統計数値などを用いて、自賠責保険及び自動車保険の仕組みや一般的な補償内容、収支動向、自賠責保険の損害調査などを保険契約者や交通事故被害者などに知らせることを目的に毎年作成されています。同書の中から、自動車保険の収支などについて、過去のデータとの比較と併せて紹介します。

同書によると、2024年度の任意自動車保険の収入保険料（グラフ1）は4兆126億円で、前年度に比べ1,396億円（3.6%）増加、支払い保険金（グラフ2）は2兆1,781億円で同比1,171億円（5.7%）増加しました。

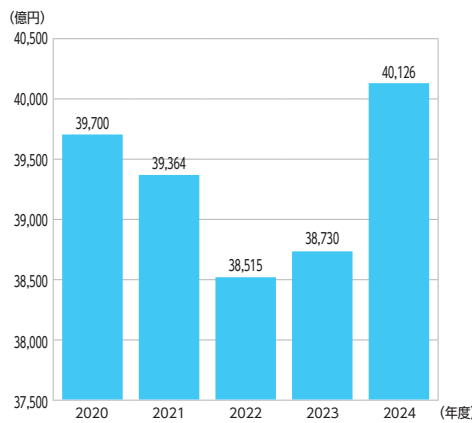
支払い1件当たりの修理費の推移では、車両保険（グラフ3）が前年度から29,728円増加し392,877円、対物賠償（グラフ4）が同比29,517円増の416,624円、ともに増加していました。修理費を費目別で見ると、車両保険では部品費が前年度比11,431円増の195,634円（構成比49.8%）、工賃が同比8,375円増の91,081円（同23.2%）、塗装費が同比7,266円増の70,159円（同17.9%）、その他が同比2,656円増の36,003円（同9.2%）です。いずれの費目も前年より増加しましたが、特に工賃が前年比10.1%、塗装費が11.6%と上昇率が高い傾向が見られました。2022年度から消費者物価指数が上昇傾向を示しており、それを受けて損害保険会社各社は2023年度、2024年度と指数対応単価を引き上げていました。その結果、支払い1件当たりの工賃と塗装費がそれぞれ増加したと考えられます。

一方、対物賠償では部品費が同比

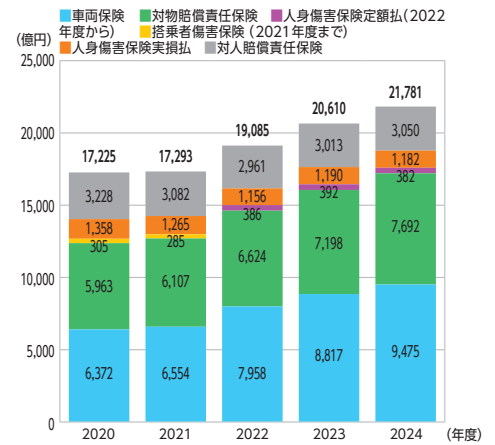
10,747円増の173,900円（構成比41.7%）、工賃が同比5,258円増の73,047円（同17.5%）、塗装費が同比4,144円増の59,788円（同14.4%）、間接損害が同比7,174円増の78,777円（同18.9%）、その他が同比2,192円増の31,110円（同7.5%）でした。対物賠償においても全費目が上昇していますが、最も上昇率が大きかったのは間接損害でした。国土交通省が示した「車体整備事業者による適切な価格交渉を促進するための指針」では代車費用

について、依頼者に過失割合があった場合でも、「事故との相当因果関係（車格・日額・期間）が認められる代車費用については、過失割合に応じた損害賠償金支払いの対象となるとされているものが多い」と言及されていました。同指針は2025年3月に公表されたものですが、国交省はそれに先立ち関係省庁と連携して損害保険会社との対話を設けており、その対話を通じて代車費用対応の改善が進められた可能性が考えられます。

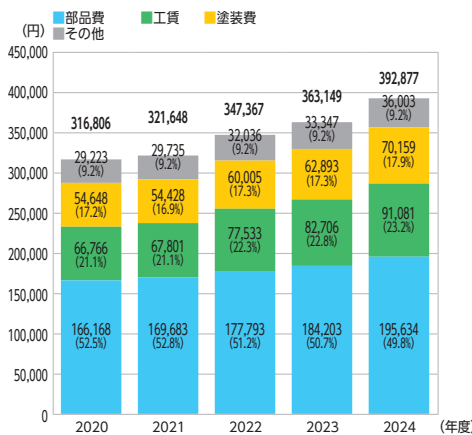
グラフ1 任意自動車保険・収入保険料の推移



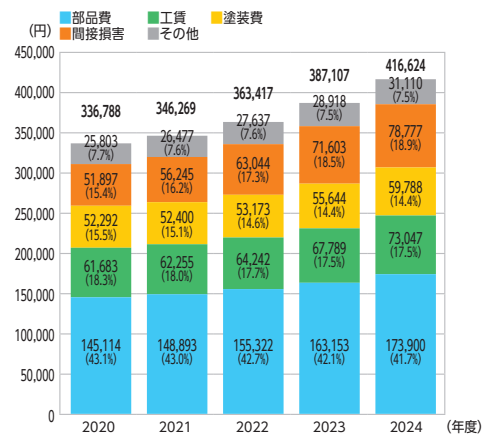
グラフ2 任意自動車保険・支払い保険金の推移



グラフ3 修理費費目別統計（車両保険）



グラフ4 修理費費目別統計（対物賠償責任保険）



NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和8年4月：

1,916t

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和8年4月：

0.2t

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。



NGP 組合員 かわら版

第35回基礎研修会を開催 NGPの一員としての理念を体得



修了式で受講生を
鼓舞する小林信夫
理事長

NGP協同組合は4月21～23日の3日間、BumB東京スポーツ文化館（東京都江東区）で第35回基礎研修会を開催しました。

基礎研修会とは、三大信条をはじめとした、NGPグループの基本理念とともに、社会人として必要不可欠な礼儀作法を学ぶことを目的としたもので、NGP全組合員が品質を“合わせる”ことの意味と重要性を体得します。修了式で登壇した小林信夫理事長は、研修を終えた新しい一員に改めて歓迎と、組合員各社と講師に対する感謝を述べた後、「NGPは環境変化の大きい時代の中で、多くの課

題に直面しています。だからこそ、新しい視点や発想を持つ皆さんの力が欠かせません。基礎研修で学んだことを明日からの仕事の中で活かし、失敗を恐れず、周りの先輩や仲間を頼りながら、一歩ずつ、成長していきましょう。この基礎研修会が、皆さんにとってNGPマンとしての原点を確認する機会になっていれば幸いです。今後の皆さんのご活躍を大いに期待しております」と、受講生を鼓舞しました。

3日間の研修を終えて、KMI(株)の久瀬志乃さんは「今回の研修はまさにNGPマン心得5ヶ条を体現する内容で、

仲間と協力しながら結束を高め、互いに成長できるものでした。わずか3日間ではありましたが、ここまで深く打ち解け、強い結束が生まれたことに驚くと同時に、別れが名残惜しいと感じるほどの充実した時間となりました。今回の研修で学んだことやお客様第一の姿勢を今後の業務にしっかりと活かし、より良い仕事ができるように努めていきたいと思えます。ありがとうございました」と、自身を成長させてくれた研修に対して感謝の言葉を述べました。

NGP理事会、リバー社最新シュレッダー設備を視察 循環型社会の実現に向けて意見交換



最新シュレッダー
設備を見学する、
NGP理事メンバー

NGP理事会ではこのたび、組合員であるリバー(株)を訪問し、本年1月に更新・稼働開始した最新シュレッダー設備を見学しました。

リバー社は、日本で初めてカーシュレッダーを導入した企業として知られており、日本の自動車リサイクル業界を長年牽引してきた存在です。現在では、日本最新鋭となるシュレッダー設備を導入し、さらなる高度選別や資源回収効率の向上、環境負荷低減に取り組んでいます。

今回の視察では、新設備の概要や運用

状況について説明を受けるとともに、実際の処理工程も見学しました。大型化・高性能化された設備に加え、効率的な資源回収や安定稼働に向けた様々な工夫が取り入れられており、参加した理事からも多くの質問や意見が交わされました。

また、視察後には、サーキュラーエコノミーの実現に向けた意見交換も実施しました。使用済み自動車を取り巻く環境は、国内発生台数の減少や海外流出の増加など、大きく変化しています。そうした中、自動車リサイクル業界には、単な

る適正処理にとどまらず、資源循環価値の向上やCO₂削減への貢献など、より大きな役割が求められています。今回の視察は、解体・リユース・破碎・資源化までを担う各事業者が連携しながら、循環型社会の実現に取り組んでいく重要性を改めて共有する機会となりました。

NGPでは今後も、組合員との連携を深めながら、業界の発展と持続可能な社会づくりに取り組んでまいります。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北海道	株式会社ライズコーポレーション	会社名 会社代表	札幌ホンダ株式会社 SHライズ 代表取締役 高田靖久	2026年5月1日

訃報

令和8年5月3日、北陸支部組合員・株式会社リベア（石川県七尾市）
代表取締役 金山征二様のご尊父様・代表取締役会長 金山正男（かなやま まさお）様のご逝去されました（77歳）。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和8年5月8日、中四国支部組合員・株式会社桃太郎部品（岡山県岡山市北区）
代表取締役 岸本恭秀様のご尊父様・岸本好章（きしもと よしあき）様のご逝去されました（享年83歳）。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>